

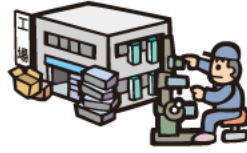
### 障がい者の雇用推進

下野 幸助 議員  
(新政みえ/鈴鹿市選出)



#### 問

本県の障がい者の実雇用率は、平成24年6月現在、1・57%となっており、昨年からの改善されたものの、全国では45位となっています。障がい者の雇用を促進するためには、関係部局を超えた横の連携により、障がい者を点ではなく面で支援することが必要であり、チーム丸丸となつて取り組むべきものと考えますが、いかがですか。



#### 答

県では、「三重県障がい者支援施策総合推進会議」において関係部局が相互に連携し、全庁をあげて障がい者の雇用推進に取り組んでいます。また、平成25年度からは、「障がい者雇用推進監」を新設し、障がい者雇用に関する部局横断の総合調整や出口のアップロードなどを行ってまいります。その他の質問事項  
○三重県の経営方針 ほか

### 20年後の第63回式年遷宮に向けて

中嶋 年規 議員  
(自民みらい/志摩市選出)



#### 問

知事は、今回の式年遷宮は日本中の人たちにPRするのがメインだが、20年後の次の式年遷宮はグローバル化を視野に入れたと言っています。次の式年遷宮を国際的にも注目される行事へと高めるとともに、伊勢神宮、伊勢志摩、三重県が世界から注目されるスポットとなるような、気概と夢のある国際戦略に今から果敢にチャレンジしてはいかがでしょうか。

#### 答

今回の式年遷宮を通じて、多くの日本人がその歴史文化を自らのアイデンティティとして理解し、それがベースとなつて、20年後にはグローバル社会で三重県という地域が存在感を発揮し、持続的に発展すると考えます。真の国際戦略、三重県の知名度向上にさまざまな関係者のご意見を伺いながらチャレンジしていきたいと思えます。その他の質問事項  
○三重県観光をより強く ほか



### 介護人材の確保

日沖 正信 議員  
(新政みえ/いなべ市・員弁郡選出)



#### 問

介護を取り巻く現状は、慢性的な人材不足が続いており、今後更に高齢者が増えていく中で、介護の現場がより深刻になっていくことが懸念されます。人材確保のための各種事業にはこれまででも取り組まれています。一方で、事業を検証し、学校教育の段階からの取り組みも含め、さらに効果的な手法はないか検討すべきではないですか。



#### 答

県では、福祉人材センターを中心に介護人材確保のためのさまざまな取り組みを行っています。依然として人材不足であり、人材確保が喫緊の課題です。このため、平成25年度は従来からの取り組みに加え、新たに介護分野への若い人材の参入を促進するため、県内の中学校・高等学校の生徒や教員などに対するセミナーの開催などにも取り組んでまいります。その他の質問事項  
○教育現場の課題 ほか

### 伝統工芸士の無形文化財への指定

岩田 隆嘉 議員  
(自民みらい/伊賀市選出)



#### 問

伝統産業は地域経済を支えてきた産業であり、重要な観光資源ですが、輸入品の増大など厳しい環境にあり、小規模事業者が多い伝統産業の持続的発展には行政など関係者のサポートが必要です。伝統産業を維持、発展させる取り組みを進める上で重要となる「②伝統工芸士」の技術の価値を県民が認識し、地域に根付かせるため、無形文化財への指定ができませんか。

#### 答

県の無形文化財指定には、無形文化財の保持者が団体の認定が必要で、原則として市町の指定文化財の中から、県文化財保護審議会の審議を経て県が指定します。伝統工芸の無形文化財指定にあたっては、準用する国の指定基準を満たすかどうかについて、市町とも連携し、専門家の意見を聴取しながら適切に対応していきたいと考えます。その他の質問事項  
○T P Pと農業問題 ほか



伊賀焼

文中の傍線部分については7ページの用語解説をご覧ください。